

六甲カトリック教会報

2006.2 No.410

2月のお知らせ

| | | 教会暦 | 教会行事 |
|----|---|--------------------|------------------------------|
| 2 | 木 | 主の奉献 | |
| 3 | 金 | | 初金 7:00 10:00 ミサ 婦人会例会 |
| 5 | 日 | 年間第5主日 | 結婚準備セミナー開始(2/26まで) |
| 6 | 月 | 聖アガタおとめ殉教者 | |
| 10 | 金 | 聖スコラスチカおとめ | |
| 11 | 土 | 世界病者の日(ルルドの聖母) | |
| 12 | 日 | 年間第6主日 | 病者の秘跡(全てのミサ) 10:15 小教区評議会 |
| 14 | 火 | 聖カシウス隠世修道者 聖マリアオ司教 | |
| 19 | 日 | 年間第7主日 | |
| 20 | 月 | | 14:00 三日月会 ミサと例会 |
| 22 | 水 | 聖ペトロの使徒座 | |
| 23 | 木 | 聖ポリカルポ司教殉教者 | |
| 25 | 土 | | 14:30 子供のミサ |
| 26 | 日 | 年間第8主日 | |
| 27 | 月 | | 11:00 ベビーとママの集い |

日本26聖人の祝日にあたって

2月5日は日本二十六聖人の祝日です。この日を目指して六甲教会の数名の方が、聖人に倣って京都から長崎の殉教地西坂まで、巡礼に歩いておられるのをご存知でしょうか。

そもそもこの巡礼は、今から二十数年前、当時六甲学院の音楽の教師を務めておられた本田周二先生が始められたものです。先生は巡礼と呼ばれるものは世界に見られる行事で、日本のカトリック教会でも是非始めてみたいと考えておられました。先生は私に、「日本の四国八十八ヶ所巡りを参考にして、二十六聖人の歩かれた京都から長崎までの道を歩いて見たいと思うのですが、どう思いますか」と話されたことがありました。私は、芸術家は夢みたいなことを考えるのだなぁと思って聞いていました。

しかし、先生は着々とその準備をされていかれたのでした。その第一歩として四国巡礼の道

をお一人で完歩されたのです。その時、先生は白装束に金剛杖、草履という出で立ちで、四国の田舎道を歩いていかれました。するとその時、畑で仕事をしていた一人の年老いた婦人に出会い、彼女は「今どき歩いて巡礼をされるのはめずらしいですね。皆、観光バスなどで参加されるのに。」と言われ、「せっかくですから家に来てお経を唱えて下さいませんか。」と願ったそうです。先生はその姿で、いまさら私はカトリック信者ですとも言えず、そこは演技の上手な先生、僧侶になりすまして、その方の家に行き、「ハンニヤハラミター…」と記憶していた般若心経の一節を唱え、家族一同から「誠にありがとうございました。」とお礼を言われたというエピソードがあります。

このような経験、体験、準備の積み重ねの結果、日本二十六聖人の巡礼が始まった次第です。

この巡礼は京都から山陽道に沿って九州に渡り、長崎までおよそ一千キロの道を歩いていくのですが、この巡礼に参加された方々は延べ三千人を越えるとか。またこの巡礼で洗礼を受けられた方は64人と聞いております。初めにも記しましたように六甲の信者さんの中にも幾人かの方々が完歩しておられます。

このように大きな巡礼に発展していったことは、本田先生始め関係者一同の祈りと努力の実

りと言えますが、それよりも大きなことは神様と二十六聖人がじっと見守っていて下さったからできたものだと、先生ご自身感謝されておられました。私たちもこの会の永続発展、ひいては福音を広める為に二十六聖人のご保護とお導きを願って、益々発展していくことができますようお祈りしたいものと思います。

安芸瑛一神父

各 部 会 だ よ り

👉 壮年会

総会・新年会が1月15日(日)に開かれました。30数名の会員の方々、また新しい顔ぶれも加わり、にぎやかに行われました。総会は昨年度の活動報告と会計報告承認のあと、新役員は留任を含め5人の紹介がありました。新年会はめずらしい到来もののワインをはじめ、飲み物、おつまみなどはあつという間にはけ、旺盛なエネルギーを発揮し懇親を深めました。

新役員は以下の方々になりました。

詫洋一、高山吉彦、蛭田武、船井孝祐(以上留任)、木暮靖夫(新任)

👉 婦人会

今年度の役員です。

会 長 北上千恵子

副会長 森田万規子・塚崎みち子

会 計 後藤翔子・豊谷由美子

書 記 梅原明子・藤原佳代子

この1年、お互いに励まし合い、協力して、一つの心で楽しく、皆様と共に歩んでゆきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。

2月行事

3日(金) 初金ミサ 10:00 ミサ後例会

お話：桜井神父様

カレー当番：西3・西4・西5

午後1時半より地区トップの集まりがあります。

2月掃除当番

3日(金) 西1、西2

10日(金) 西3、西4、西5

17日(金) 中1、中2

24日(金) 中3、中4

いずれも9時からです。

👉 三日月会

< 例会 >

2月20日(月)14時から ミサと例会

👉 青年会

< 定例会 >

2月12日(日)、26日(日)12:30~14:00

於：第3会議室

内容：聖書研究(指導：高山神父)

初めての方も是非気軽に参加下さい！！

👉 社会活動部

2/1(水)10:00~ 手芸の集い

於：第1, 2会議室

手芸のお好きな方、何方でもご参加下さい。

2/3(金)13:00~ 社会活動部連絡会

婦人会例会後、第2会議室にて始まります。

討議事項が多数ありますので、是非ご出席下さい。

2/11(土)10:00~ 炊き出し

教会台所で準備し、用意出来次第、小野浜公園に移動します。今回より30分遅くなりましたので、ご注意下さい。

2/12(日)13:30~ 社会活動部学習会

於：イグナチオホール

講師：高山親神父

2/19(日)10:00~ 手作り&喫茶コーナー
イグナチオホールで、9時ミサ後より開店。
購入のご協力と歓談の場として、是非お立ち
寄り下さい。

2/24(金)14:00~ お握り作り
須磨方面夜回りのために作ります。
ご協力をお願い致します。

Fr.高山の学習会と写真展のご案内

2/4(土)~19(日)イグナチオホールに於いて、カンボジアの子供達の写真展示を致します。教会報1月号に報告致しました年末献金の送り先の一つ“バタンバン友の会”支援関連の写真展です。これらの写真と絡めて、カンボジアを含め、子供達に代表される弱い立場に追いやられている人々に対する本当の支援活動とは？キリスト者としてあるべき援けの手の伸べ方は？をお聞きしたいと思っています。私達はともすれば、無意識のうちに‘めぐむ’‘施す’と言うことに流れてしまっていないでしょうか？国内外を問わず、不幸な出来事の続いている今だからこそ、改めて、少し考えて見る機会を持ちたいと思います。多数の皆様のご来場をお待ち致しております。

<3/5(日)『共に捧げるミサ』について>

四旬節第1主日のこの日、11時のミサを大阪教区シナピス傘下、障害者デスク・フレンドリーのメンバーの方々と一緒に、主日のミサを御捧げしたいと思います。このミサでは、手話通訳、要約筆記、点字冊子等を準備いたしますので、障がいをお持ちの方をご存知の方は、「是非このミサに与られますように」と、お知らせしていただきたく存じます。車椅子をご利用の方の駐車スペースも確保出来ます様に、併せて皆様のご協力をお願い致します。

📖 典礼部

1月21日 典礼部例会を行い下記項目を検討した。

2006年度典礼部予算を検討

4月から、典礼部のメンバーが交代します。

(若返りとスリム化を図る)

聖体奉仕者黙想会

指導：バレンタイン神父様

4/1(土)10:00~16:00(第一、第二会議室)

15:00より小聖堂でミサ

聖体奉仕者の方は、皆様お集まりください。

典礼奉仕者の集いの日程

指導：バレンタイン神父様

6/11(日) 6/18(日) 13:30~15:30

両日とも内容は同じです。

典礼奉仕者(案内・海星病院を含む)の方は、皆様お集まりください。

聖体奉仕者の任期、条件、選出等について。典礼部の意見をまとめる。

・任期(例えば2年)をもうけ、継続は可能。

任期期間は必ず継続する。

・識別の機会を年1回もうけ、自己判断にまかせる。

・任期(例えば2年)を決めて継続不可。一度おりてリフレッシュする。任期と同じ期間(例えば2年)を過ぎると再度可能。他の方にもチャンスを与え、選出の方法を広くする。

・聖体奉仕者の必要な人数も考える必要がある。等の意見がでました。

7/30(日) イグナチオ・ロヨラの霊性、生き方等についての講演会

(講演会:13:30~15:30 大聖堂、

茶話会:15:30~16:00 イグナチオホール)

結城了悟神父様の講演を予定しています。おもしろい話をたくさん聞かせていただけます。お楽しみに!!

📖 施設管理部

散水と外路清掃の協力者を募集します。

期間：4月~10月まで7ヶ月間 週1回

所要時間 1時間30分から2時間位

スケジュール：散水者 月・水・金曜日

外路清掃 火・木・土曜日

作業は2人一組で無理のないように行います。

多数の御協力・御支援をお願いします。

今年の私は希望として、只今育てている珍しい植物、宿根草、球根などを4月頃に植替、株分の作業を行いたいと思っています。今後、庭園にはロウバイ、橘、沈丁花、アーモンド、木

蓮、吉野桜、レモンが、季節季節に花を咲かせることでしょう。皆さんと共に花を咲かせる喜びと感動を分かち合いたいと思います。

(中口)



📖 広報部

販売したカレンダーの一部に、祝祭日の表記に誤りがありました。ご迷惑をおかけしました。

また1月号でクリスマスを詠んだ俳句を2首ご紹介いたしましたが、1部誤りがありました。ここに重ねてお詫びして訂正申し上げます。

御父の愛の秘義なるクリスマス 恭子

ベビーとママのクリスマス会

昨年の12月26日にベビーとママの集いのクリスマス会が行われました。参加されたベビーシッターの金子さんとママの武貞さんに、ご感想と集いの紹介文をお願いしましたところ快くご投稿いただきましたので、皆さんにご披露いたします。写真は安田さんが撮ってくださったものです。

私がベビーとママの会に参加させて頂くようになったのは、息子が4ヶ月の頃でした。当時、私は職場と家の往復で地域のこともよく知らず、子育ても不安だらけ。自分に自信の持てない私は、「こんな私が親でいいのかな」「子供のためにもっと何かしたほうがいいのか」とよく悶々としていました。そしてある日、かねてから教会の静寂が好きだったので、私はふとこちらの教会に立ち寄ったのです。初めて、しかも突然勝手に聖堂に入るには緊張しましたが、好きな本も自由に借りられることを知り、受付の方にも温かく迎えて頂き、すっかり安心した私は度々訪れるようになったのです。そして、ベビーとママの会にもお誘い頂きました。

会ではいつも、保育室でボランティアの方々の子を預け、別室でその週の典礼を読んで学びを分かち合います。が、当初私は無宗教でキリスト教のことをよく知らない上、息子と離れて休憩できるのを楽しみにしていたのに、息子はしがみついて離れさせてくれず、困惑しました。それでもまた参加したくなって今に至っているのは、皆様に温かく支えて頂いているからに他なりません。ベテランお母様方から母子共に温かく見守って頂いている安心感。福音を読んでもちんぷんかんぷんで突拍子もない質問をしても、丁寧に教えてくださる藤原さん。感じたことを自分のプライベートと共に素直に包み隠さ



ず話して分かち合って下さる、参加者のママさん方。わたしの子育てや日々の悩みは本当に軽くなっていきました。

過日にはクリスマス会が行われました。ベビーとママとベテランママが、皆で歌って語って、サンタを迎えたりお食事を頂いたりしながら祝いました。また皆さんに支えて頂いた一年だったなと改めて感謝する時です。そして今回は、藤原さんより聖書の言葉を頂き、自分がどれだけの人に支えられているか、どれだけの愛をうけているのか、改めて振り返り感謝しようという機会を頂きました。私の場合この会の方々はもちろん、友人や恩人はすぐ浮かんできたのですが、ふと隣に居る息子をすっかり忘れてることに気づきました。甘えん坊で私の悩みのタネ、とつい思いがちだったけど、実はいつも私を心から愛してくれて私の成長を共に歩んでく

れているんだ！と気づかされ、生まれてきてくれた時以来久しぶりに我が子に感謝できた幸せな機会となりました。

その甘えん坊の息子ももう4才。いまだになかなか離れては過ごせないけれど、お蔭様で私にも少々のことなら(?)笑って受け入れられる余裕も出てきました。聖書のお話やキリスト教のことも、グッと身近になった気がします。また一年、母子共に少しでも成長できますよう、努めたいと思います。皆様に感謝しながら……。どうぞよろしくお願い致します。(武貞)

毎月第4週目の月曜にこの集いがもたれていることは、皆様もご存知だと思いますが私たちにとって、その日は小さなお子達のベビーシッターをさせて頂く楽しみの日でもあります。時には大好きなママと別れ難く、泣きべそをかくお子があったりして、色とりどりのおもちゃで何とかご機嫌を取り結ぶのに、大変な折もありますが、この日ばかりは皆ニコニコでお母さんと一緒にイグナチオホールのクリスマスに総勢20人が集まりました。そこに私たちベビーシッター係もお相伴をし、まず藤原さんのお話をお聞きました。

日頃事務所でお見かけする教会の大黒柱を担う方の威厳に満ちたお顔ではなく、この日は幼稚園の園長先生の如き優しい語り口で、この会がシスター松本から引き継がれて以来ずっと続いている事などお聞きました。各自自己紹介をして感じた事は、中には電車を乗り継いで来られている親子も居られ、子育て真只中のママにとって、この集いが単なる勉強会だけでなく、

よきお仲間同士ホッとされる何かがあるように思われるのでした。

童心に返り皆で「あわてん坊のサンタクロース」を歌っていると、何処からか少しスリムのサンタがやって来て、日頃のヤンチャさん達が目を丸くして、しっかり固まっていました。

最後に圧巻だったのは、テープをかけてママと年中さん達が、ダンスの披露をして下さり、そのリズムに乗って踊る腰を振りふりダンスを私達も楽しく教わりました。「これは三日月会でもやるといいね」と、藤原さんがおっしゃっていました。ママの一人が日頃ベビーシッター役の私達に、「いつも静かな時間を与えて下さって有難うございます」と勿体ないようなお言葉を頂きましたが、目を見張る成長を遂げて行くお子達一人一人から、逆に元気を頂いている気がいたすと同時に、子育て真只中の若きママ達に、心の中でいつも声援を送っている私達です。(金子)



ヒマラヤ桜に感動

今年は、例年になく大変厳しい寒さ。雪国では豪雪で3メートル以上の積雪で、雪降しの作業中に尊い命を失われた方が70人とも80人とも言われ、本当に無念残念です。

そんな中、教会の庭園の1本の木が、御降誕祭に向けて花をつけました。それはなんと3,4年前に今は亡き橘さんのご主人様の植えられたヒマラヤ桜です。信徒への何よりのクリスマス・プレゼントではなかったでしょうか。奥様と娘さんは、立派な花を見られ、大変感激なさっておられました。

このようにして神から自然のお恵みを授かることは、世話をしている者にとって、本当に喜ばしく、嬉しいものです。(中口)



教会新年会 と 新成人のお祝い（1月8日）

< 新成人の感想 >

成人式のミサにありましたお話にて、評価されるかどうかではなく、自分の思う限りベストをつくすというものがありませんでした。私はそれに深い感銘を受け、これから歩む人生の指針とすることを決意できました。そういったチャンスをいただけたことをとても感謝しております。

1月8日は本当に貴重な経験をさせていただきましてありがとうございました。

（熊澤）



阪神・淡路大震災祈念ミサ報告

1月17日(火)、震災祈念ミサが行なわれた。15日(日)の週報でNHKの取材があるとアナウンスがあったとはいえ、200人ほどの方がミサに与った。改めて11年前の阪神淡路大震災の残した傷跡の深さを感じた。大震災の犠牲者の冥福とともに、一昨年末にインドネシアを襲った大津波以降続いている多くの災害犠牲者の冥福をともに祈った。司式されたバレンタイン神父様は、説教のなかで、「犠牲者を思う心を、周りの人々への思いやりという形に変えて生かしてはどうか」と話された。

ミサのあと、鐘楼のマリア像、教会西北角の「家族」像の前でも祈りを捧げ散会した。

(桐原)



~~~~~

### 今、信徒として考えている事

評議会副議長 志水登美子

1月往く、2月逃げる、3月去ると言われる様に、アッと言う間に1月は過ぎ去り、2月になってしまいました。この月が過ぎればすぐに3月1日“灰の水曜日”四旬節が始まり、そうこうしている間すぐ“聖週間”“御復活”へと進んでゆきます。

如何してこうも時の経つのが速くなって来たのだろうか、焦りにも似た物がついて回ります。そんな慌ただしさの中で、一人の信徒として、自分のしている事は、本当に神様の望んでおられる事なんだろうか、御旨に沿ったものなんだろうか？あたふたと走り回っている姿は、他人の躓きになってはいないだろうか？色んな想いが交錯しています。

誰しも、自分の信仰を深める為、聖書研究会、勉強会、講義などを受け、祈りの時を持ち、じっくりと信仰を深める機会を望んでおられる事でしょう。

でも一寸考えてみて下さい。教会の中にはあなたの手が必要とされている事がいっぱいあるのです。多くの方が、ほんの少しでも手を貸して下されば、皆がゆったりと、心静かな祈りの時を持てるのだと、思われませんか？

今教会は、信徒夫々が動く教会として、ただミサに与り、司祭に全てを頼っているだけで良いところから、自分達の学んだものを、外の社会に向けて証し、奉仕する所へと、変わることを推し進めています。

皆で少しづつ夫々の与えられている物を、お返しして行きませんか？

### ナルニア国物語

C.S.ルイス 著

年末年始の北米映画興行収入によると、ファンタジー巨編〔ナルニア国物語 第1章・ライオンと魔女〕が3280万ドル(約38億5000万円)と首位で、先週までトップの〔キング・キング〕(3160万ドル)を逆転したそうである。

著者に惹かれてこの本を読んでみて、講談社の少年少女文学全集に夢中になっていた小学校の頃を思い出した。この本は小学高学年から60歳に手の届く私のような者でも楽しめる内容である。この世界にいる子供たちが、お屋敷の衣装箆笥のドアから全く別の世界であるナルニア国へ足を踏み入れることから物語は始まる。そこで、子供たちは勇敢に行動し、この世界との間を往復するという全7巻よりなる胸躍る空想物語である。しかし、この本はモンテ・クリスト伯の痛快極まる復讐物語や潜水艦ノーチラス号による冒険物語などではなく、イエス・キリ

ストの物語である。すべての作品の中心にイエスに比したアスランというライオンがいて、子供たちがそのアスランと出会い、その導きによって物語が進行し、善と悪の戦いを通して子供たちの魂が成長し、正しい生き方を学んでいくことになる。世界の創造、墮落、イエスの死と復活、再臨などのキリスト教の中心となる教義がやさしい言葉や挿話で説明されており、著者の詩人としての豊かな想像力と着実に話を進行させるという学者としての論理構成力が如何なく発揮されている。

C.S.ルイス(1898-1963)は、1924年以来オックスフォード大学とケンブリッジ大学で英文学を講じてきた学者である。英国国教会の平信者であり、高度な神学的な問題などには目もくれず、未信者である隣人たちに、キリストチャンが抱いてきた信仰を易しく説明し、弁護するという立場を貫いてきた人である。

(志垣)

良い本と出会ったら、皆さんとも分かち合いたいですね。  
「図書紹介」欄では、皆さんからのご寄稿をお待ちしています。  
また、購入希望の本がありましたら、是非、図書室のみどりの  
投稿箱にお入れ下さい。 図書係

教会報月3号の発行は、2月26日(日)です。  
編集会議は2月19日(日)です。  
記事原稿は、2月12日(日)正午までに信徒会館事務室  
へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会  
〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21  
電 話 078-851-2846  
発行責任者 桜井彦孝 神父  
編 集 広 報 部